



[今月の聖書]

「わたしは苦しめない前には迷いました。しかし今はみ言葉を守ります。あなたは善にして善を行われます。あなたの定めをわたしに教えてください。」(詩編 119:67、68)

「わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」。(ヨシュア 1:9)

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ、あなたの義を光のように明らかにし、あなたの正しいことを真昼のように明らかにされる。」(詩篇 37:5、6)

「夕方になったとき、舟は海のまん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。ところが逆風が吹いていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをごらんになって、夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとされた。彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。」(マルコ 6:47-51)

「昼には、主はそのいつくしみをほどこし、夜には、その歌すなわちわがいのちの神にささげる／祈がわたしと共にある。」(詩篇 42:8)

「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れませんが、あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。」(詩篇 23:4)

「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(第一ペテロ 5:7)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は希望の言葉②「人生の指針」と題してお話いたします。信仰とは神に導かれる旅であると言われる。自分で舵を取るところから、神の導きに従って生きるという生き方の変更を意味しています。古代の人々は不思議な霊的経験によって神の声を聞きました。私たちはその記録の集大成である聖書によって神の声を聞くことができます。人生には迷いと不安と言う2つの大きな試練が待っています。迷いに対して聖書は「思い煩うな」と言い、不安に対しては「恐れるな」と言っています。人生の節目で、また試練のただなかで、聖書の言葉から神の御声を聞くことによって試練を乗り越えられる人は幸いです。あなたの聖書が生き生きと心を励ますものとなりますようにお祈りしています。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

3月12日(火) 13:00 CFI 横浜集会(福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

3月20日(水) 11:00 水曜礼拝、14:00 ジョイコーラス礼拝(自由が丘チャペル)

* 3月11日(月) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会(淀橋教会)

* 3月22日(金) 11:00 バイブルアカデミー(自由が丘本部事務所)

三月三十一日

「逆風が吹いていたために」

マタ十四ノ二十四

荒野の泉

レター・B・カウマン

山崎亭治訳

まえがき

日本と朝鮮という東洋の伝道地に数年間を過ごしたことは私共の特権でありました。ですが、気候の違いと、あまりに緊張した働きが、私の愛する夫の健康を損いました。それで私たちは故国に帰る事を余儀なくされたのです。そして六年間生と死の戦いをつづけました。

『その時サタンが来て』その圧迫の下に私共を気落ちさせようとしてきました。だが、試みはその極点に達した時、神は昔から親しんで来た聖言を照らし、又助けとなる書物や、小冊子が摂理の御手によって私の手に落ちて来ました。しかもそれは、その時必要なメッセージを持って居ました。ある日、海辺を散歩して『神は恵みを施すことを忘れたまいしや』と心に不審を起こしていた時、一枚の印刷物が足下に落ちて居たのです。私共はそれを拾い上げて読みましたが、それは『神は暴風雨の眼の中にあるその子供を見て微笑したもう』というのでした。それで私共は神の愛のきらめきを新たに把握しました。

『神の最も貴い親切はわたしたちの最も深い弱さに対して貯えられて居る』。私たちはこの試みの年強い愛の御手に保たれて、私たちと共にいます神の驚くべきご臨在のゆえに、わたしたちの砂漠を愛する事を学びました。

私たち自身の苦難が多くの悩める心を私たちに引き寄せました。そして私たちは『神に慰められるその慰めをもって彼らを慰め』ようとしました。私たちは三年間「神のリバイバル」の読者に、これら日ごとのメッセージを取次いで来ました。そしてこれらのものを書物の形にするようにとの多くの要求が『荒野の泉』を出版するようにさせたのです。本書は多くの疲れ切った、道にゆきくれた旅人がこれを読んで新たにされるように、との祈りをもって送り出されたのであります。

レター・ビー・カウマン

三月の風はしばしば荒く吹きすさぶ。これはわたしの生涯の荒れる季節の模様ではなからうか。しかしわたしは季節を知っていることを喜ばねばならない。わたしはいつも昼過ぎのようなれんげ草の土地、または荒い風の吹かないアヴェイリオンの青草の谷に住むよりも、雨の激しい洪水の地に止まる方が更に善いと思う。誘惑の暴風は残酷に見える。だがそれは、より熱心な祈りを与えないだろうか。また更に強い力をもってわたしに約束を把握させ、またそれは精錬された品性を残さないだろうか。

死別の暴風は鋭い。しかしこれはわたしを神ご自身に引きつける天父の道である。また、それは神のご臨在のかくれた所で、神のみ声が柔らかく低く、わたしの心にきこえるためでもある。

風が逆で、舟が波のために翻弄される時にのみ見られる主のご栄光がある。「イエス・キリストは暴風に対しての安全」ではなく、彼は暴風の中の全き安全である。彼はあなたがたに安易な道を決して約束しなかった。彼が約したもうたのは安全に上陸することである。

なが帆を天の暴風にまかせよ

さらば風はいかに激しくとも

暗礁はなれを破ることなく

いかなる霧もまた暴風も妨ぐることあらじ

なれはいかに遠くさ迷い またゆきめぐるとも

また塩海のしぶき 白き波迫るとも

これらの嵐はなれを天の家に急がすのみ